

下水道問題

問 再発防止の庁内体制と対策は

答 信頼回復と問題解決へ向け職員一丸で



津滝 俊幸 議員

【下水道受益者負担金問題等の再発防止の庁内体制と対策について】

問 職員の人材育成や組織体制について具体的にどのように取り組むのか。またその予算措置は。

村長 庁内の組織体制については、白馬村課設置条例に基づきこの4月より課の編成をし、下水道課を独立させ、下水道受益者負担金調査担当係長を増員しました。人材育成については、それぞれの役職に応じた研修や全体研修などを計画的に実施していく予定です。本年は「公務員倫理と使命」をテーマとした

全体研修計画しています。また、その予算については、多くの研修は長野県職員研修センター企画のもので費用はかかりませんが、年に一度は外部講師を招いた研修を行うため、本年度は31万5千円を予算計上しています。

問 事業が発覚してからすでに1年が経過している。スピード感をもって業務にあたるべきではないか。

村長 今後は問題事案に迅速に対応すべく、情報の共有化や透明性を高めるために、課題検討課長会議を随時開催し、縦割り行政の弊害をなくしてまいります。

問 専門性の高い業務の遂行としては、民間感覚からすると研修費が低すぎると思うが。

村長 議会の理解が得られれば、専門的実務の研修など業務に必要なものがあれば、積極的に研修を受けさせたいと考えています。

【平成25年度予算での
村政の方針について】

問 本年度の重点事業への着手の理由と優先順位、客観的選択基準は。事業の費用対効果は適切であるか。

村長 第4次総合計画を基本に3年毎に実施計画を策定し、地域役員懇談会や事業評価委員会の答申を基に毎年見直し、予算編成をしています。また、費用対効果は、その事業の緊急性や国庫補助など有利な起債等を活用し、財源措置を総合的に判断しています。

問 特産品開発は多くの時間と労力や沢山のひと手が必要とする。単年度の事業ではなく継続性をもった予算とすべきと思うが。

村長 次年度以降も特産品開発の予算は継続していく考えです。



県営事業 小水力発電施設建設予定地（視察）

村長 美しい景観を、健康な暮らしと観光資源として生かし、「住んで良かった」「住んでみたい」と思うような村を目指すものです。

問 予算概要にあるスローガン「めざすべき新しい白馬村」とは、具体的にどのような村か。

村長 村民と行政が一体となり、豊かな自然環境と美しい景観を、健康な暮らしと観光資源として生かし、「住んで良かった」「住んでみたい」と思うような村を目指すものです。